

障がい者スポーツの普及へ する、見る、応援するを広げたい

「モバチュウ」
携帯とインターネットで
障がい者スポーツ中継
福祉イベントを企画する

NPO法人・STAND



障がい者スポーツの普及を目指すNPO法人・STAND(スタンド、東京都渋谷区、大星公二代表理事)は、インターネットと携帯電話を使った中継システム「モバチュウ」や、「アスリート・ビレッジ」というサイトを通じて、障がい者スポーツのライブ中継や情報を配信しています。

発端は、2003年秋、現在STANDの副代表理事を務める伊藤数子さんが、応援していた電動車いすサッカーチーム(金沢市)が全国大会出場のため、大阪に行くことになったとき、障がいのために医者から長距離移動を止められて参加できない選手がいると知ったことでした。

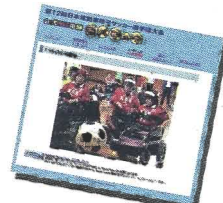
「伊藤さんは、せめてその選手に試合を見てもらいたい」と、携帯電話で通信することを思いつきましたが、これをインターネットで公開すればより多くの人に見てもらえるのではと、携帯電話会社に相談し、実証実験として取り組んでもらい、技術的な助言、端末や機材の貸与や通信料の負担までしてもらえることになりました。

大会当日、会場の体育館にパソコンを設置し中継を公開したところ、出場を断念した選手や、応援に来られなかった家族が大勢いることがわかり、その場で電話でアドレスを知らせて中継を見てもらったのです。これが大きな反響を呼び、「毎年続けよう」という話になりました。

「いいことだから続けよう」とはいうものの、問題は財源の確保。実証実験として協力してもらった携帯電話会社には頼り続けることはできず、2005年にNPO法人化をして補助金や助成金を受けることを目指しますが、これも、初期の立ち上げ資金の助成はあってもランニングコストまで見てくれるものではない。

そこで企業から支援をもらおうとサイトに広告バナーを張って協賛金を集めることになりました。

「スマートフォンというものは、自分でやる人、月に1〜2回、後のビールがうまいからと趣味でやる人もいれば、競技として取り組み、試合に出て勝ちたいという人もいます。見ることも楽しめるし、特定のチームの応援という楽しみなどいろいろな楽しみ方ができる素晴らしい文化。ただ、障がい者のスポーツというところもリハビリの延長のような特別な分野と思われがちで見るスポーツと思われていな



スタンドへのアクセスは
<http://www.i-project.jp/stand>

「電動車いすサッカー」のように自主的事業として主催者との連携で公式中継としてやっているものや、大手企業の社会貢献事業をSTANDが協働事業でやることもあります。

「このイメージを変えたいのです」と伊藤さんは言います。

また、「車いすテニスの国枝慎吾選手のテニスはずいぶんよ。くぎ付けになっしまいました。障がい者スポーツを一般のスポーツと同じように、自分で楽しんで、見て楽しむ、応援して楽しむものにするため、これからは障がい者スポーツに触れる機会を少しでも多く提供して行きたいです」という。